

玉置神社と大峯奥駟道 (Web)

この非常に古い神社は、日本最古の霊場のひとつです。玉置山（1,076m）の山頂に鎮座するこの神社は、紀元前 37 年、多くの伝説を残した崇神天皇の在位中、その城を火事と悪霊から守るために建てられたとされています。しかし、この場所にまつわる神話にはそれよりさらに古いものがあり、伝えられるところによると、日本の初代天皇神武天皇（紀元前 721 年-紀元前 585 年）は、九州の所領から北へ向かって進軍する途中、神話に登場するカラスの神様に導かれてこの地域を通りました。

8 世紀初頭、この神社に別の重要な人物が訪れました。役行者（634-706）は、神道と仏教、そして古代の自然崇拝の要素を取り入れた修行の道である「修験道」の開祖でした。役行者は、現在は大峯奥駟道と呼ばれている、吉野と熊野を結ぶ山道沿いに設けた神聖な修行場のひとつとしてこの神社を選びました。平安時代（794-1185）になると、宗教的複合施設となった玉置神社は、この習合的な信仰の修行の拠点として栄え、18 世紀には境内の寺院に約 200 人の僧が居住するようになっていました。

明治時代（1868-1912）に政府が神仏分離令を敷いた際、神社の境内に建てられていた仏教建築の多くが破壊されましたが、玉置神社ではかつての寺院の一部が転用・維持されました。現在、

この霊場（神社だけでなく周辺の山や森を含む）には、100km にわたる険しい巡礼路を歩く旅人
たちや、お祓いや癒しを求める参拝者たちが訪れます。

2004 年、面積 3 万平方メートルにおよぶ玉置神社の境内は、「紀伊山地の霊場と参詣道」の一
部として世界遺産に登録されました。

[注：ウェブサイト境内の地図を掲載する場合は、建物などの場所を示す記号や数字と一緒に以
下を追加することも可能です。]

主な建造物と特徴

本社： 築 200 年のケヤキ造りの建物です。玉置神社の主祭神である、国常立尊（天地が創造
された際に最初に出現した神）、伊弉諾尊、伊弉冉尊、そして太陽の女神である天照大神（あま
てらすおおみかみ）が祀られています。

三柱神社： この摂社に祀られている三神は、無病息災や海上安全のために祀られています。

玉石社： 本社と玉置山山頂の中間に位置するこの末社は、日本古来の自然崇拝の伝統を反
映し、社殿を持ちません。杉に囲まれた敷地に、一部が埋まった黒い岩が敷き詰められた白い小石

に囲まれています。パワースポットとして崇拝されているこの場所は、玉置神社の起源と考えられています。

社務所兼台所： この建物は、1804年に仏教寺院の本堂兼台所として境内に建てられたものです。内部の襖には、江戸時代後期に描かれた見事な動植物の絵画があしらわれています。社務所は国の重要文化財に指定されています。

御神輿殿： 神輿 (portable shrine) は、10月24日の例大祭に境内を練り歩く時以外は、ここにおさめられています。

杉の巨樹群： 境内には、長い間伐採が禁じられていたおかげで、非常に古い杉の木が多数あります。その中には、樹齢3,000年の神代杉、高さ50m・幹周11mの大杉、2本の巨木の幹が結合している夫婦杉 (meoto とは「婚姻を結んだ [wedded] という意味) などがあります。